

# 親潮

北水同窓会誌

2017  
309  
No.1

第309号  
平成29年度 第1号

OYASHIO

北水同窓会のEメールアドレスが変更になりました | ホームページをリニューアルしました  
hokusualumni@gmail.com | http://hokusui.net



特集 北水の今

北海道大学大学院水産科学研究院と  
北方生物圏フィールド科学センター及び  
紋別市との連携協定について

幹事長あいさつ 会員の受賞 退職教員あいさつ 第97回定期総会報告  
クラス会報告 ほか

今年度会費  
納入の方に 北水同窓会限定

クリアファイルを  
プレゼント!



会員名簿と  
ともにお送り  
します。

# 親潮

第 309 号  
平成 29 年度 第 1 号  
OYASHIO

## CONTENTS

幹事長ごあいさつ ..... 3

**特集 北水の今**

**北海道大学大学院水産科学研究院と  
北方生物圏フィールド科学センター  
及び紋別市との連携協定について** ..... 4

紋別市観光交流推進室 副参事  
北海道大学大学院水産科学研究院 客員准教授 片倉 靖次(平16博環)

**北海道大学ホームカミングデー 2017**  
**水産学部卒業生のつどい のご案内** ..... 8

**会員の受賞** ..... 9

荒井 克俊氏(昭51ソ)／嵯峨 直恒氏(特別会員)／今井 一郎氏(特別会員)／鈴木 敏之氏(昭63化)  
笠井 久会氏(平12資)／藤本 貞史氏(平12生)

**退職教員あいさつ** ..... 13  
今野 久仁彦(昭49食)／高橋 是太郎(昭50食)／飯田 浩二(昭51ギ)／平石 智徳(昭51ギ)  
山下 成治(昭54ギ)

**第97回定期総会報告** ..... 17

**支部会・クラス会報告** ..... 23

昭和47年卒水産食品学科同窓会の報告／ナミ(73)の会 開催／青森支部平成29年総会  
東京支部平成29年度 定期総会＆新年会／小樽支部総会／広島支部'16報告  
大阪府支部新卒歓迎会開催

**学位取得者** ..... 28

**卒業生の就職先** ..... 28

**会員の異動** ..... 29

**会員死亡通知** ..... 30

**親潮投稿規定・編集後記** ..... 30

### お知らせ

## 第98回(2018年)北水同窓会 定期総会 開催予定(予告)

下記日程にて北水同窓会定期総会を開催いたします。ぜひ、ご出席ください。  
(詳細は追ってお知らせいたします)

●開催日／2018年5月26日(土)

●会 場／「うおまん中之島店」

大阪市北区中之島6丁目2番27号 中之島センタービル31階

Tel: 06-6445-1977

●総会・懇親会／15:00～

申し込み先

●北水同窓会大阪府支部 支部長 佐々木雅人(昭56化)

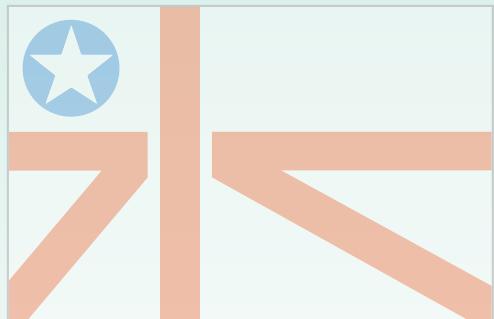
E-mail:hokusui-osaka@mail.goo.ne.jp FAX:06-6343-3736

または ●北水同窓会事務局/E-mail:hokusualumni@gmail.com Tel:0138-42-3681



## 幹事長ごあいさつ

北水同窓会幹事長  
水田 浩之（昭61ゾ）



荒井克俊前幹事長より平成29・30年度の幹事長を仰せつかり、平成28年度総会での承認を経て本年度より幹事長に就任いたしました昭和61年度水産増殖学科卒業の水田浩之です。伝統ある北水同窓会事業の継続・発展のために努力してまいりたいと存じます。同窓の皆様におかれましては、何卒ご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

北水同窓会では、年2回発行の会誌「親潮」（カラー版）やホームページを通じて様々な情報の提供を行っています。また、幹事会では支部活動の見える化（支部のHPへのリンク）や世代を超えたブリッジ形成を目指して連携強化を図ってきました。おかげさまで、支部のリンクも増えつつあります。さらに、同窓生が集う機会として毎年秋に札幌キャンパスでホームカミングデー「活躍する北水同窓生シリーズ」も行っています。本年度も鴨川シーワールド総支配人として社会の第一線で活躍されておられる荒井一利氏（昭54ゾ）のご講演を予定しています。在校生にとっては、自らの視野を広げ、モチベーションを向上させる極めて良い機会となります。これらの事業は今後も引き続いて行っていきたいと思いますので、同窓生のご講演やメッセージ、就職サポート等のご協力をお願いいたします。

北大では、平成28年6月に従来の連合同窓会を「校友会エルム」とし、全学的な同窓会を組織し動き始めました。校友会エルムでは、情報の整備、在校生や卒業生等への支援、会員間での交流、情報発信と広報、学内外での教育啓発活動、重要課題への提言を役割として掲げております。同大学中期目標にも平成27年度に設置されたグローバルリレーション北大アンバサダー・パートナー制度を創設し、海外のOBに委嘱し、国際的な北大コミュニティを拡充することが謳われ、海外ネット

ワークを広げるべく動き出しました。大学と同窓生との相互支援体制の重要性が増してきてることを示す大きな動きだと思います。北水同窓会は、校友会エルムの基礎同窓会として位置づけられています。現時点では、まだ課題なども数多く残されておりますが、今後北水同窓会は校友会エルムの基礎同窓会としての役割も求められることになるでしょう。

同窓会が持つ機能の多様化が求められる現在、大学と同窓生との相互の支援の重要性が益々強くなっています。その一方で、会費納入率の低迷から、同窓会に対する無関心や、母校に対する愛着の希薄さも伺えます。北水同窓会では、コンビニエンスストアからの払込による納付方法の簡便化をはかり、会費の増収を図っておりますが、今後の財政を健全なものにしていくためにも、更なる工夫が求められています。その意味では、卒業生間、卒業生と在校生間、同窓生と大学間でのコミュニケーションの機会の創出が必要と考えます。特に、新たな時代に同窓に加わる在学生がその恩恵を感じる機会を増やす必要があると感じます。

同窓会の役割やビジョンも、多様なネットワーク（支部間、世代間等）で成し遂げられます。大学の研究環境や教育環境および評価は、同窓の活躍なしには語れません。北水ブランドの構築に向けた相互支援が実を結ぶためにも、ご支援が不可欠です。学生生活、留学、就職、転職、OB・OG訪問のサポート、人材提供機能、学会、学術、大学関連情報の提供等に、北水同窓会を十分活用して下さることを期待しています。北水同窓会の発展のため、同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈りし、皆様のお知恵、多様な情報のご提供やご支援をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

# 北海道大学大学院水産科学研究院と 北方生物圏フィールド科学センター及び 紋別市との連携協定について

紋別市建設部港湾課(流水研究国際都市担当) 副参事  
北海道大学大学院水産科学研究院 客員准教授  
片倉 靖次(平16博環)



【調印式】平成28年11月14日  
左から、北方生物圏フィールド科学センター 本村泰三センター長、  
紋別市 宮川良一市長、大学院水産科学研究院 安井 肇研究院長

## 連携協定

平成28年11月14日、北海道大学大学院水産科学研究院及び北方生物圏フィールド科学センターと紋別市の3者は、学術・教育・文化及び地域振興に関する各分野において協力し、相互の発展充実を目的として、連携協定を締結した。また、紋別市海洋交流館内に紋別市と北海道大学大学院水産科学研究院の研究拠点となる「オホツク海洋研究室」が開設された。平成29年4月1日、著者ならびに紋別市職員 岩本勉之氏が、北海道大学大学院水産科学研究院客員准教授に委嘱され、現場での研究協力や教員・大学院生の研究受入れを積極的に行っている。

【連携協定調印式 記念撮影】平成28年11月14日





【おしょろ丸入港】紋別港 平成28年11月13日～15日

### 紋別市の紹介

紋別市は北海道オホーツク海沿岸のほぼ中央に位置し、流氷をはじめとする豊かな自然に恵まれ、農林水産業や水産加工業等の第1次・第2次産業を基盤として発展してきた。市内には昭和40年4月に北海道大学低温科学研究所附属流氷研究施設が開設され、世界初となる流氷観測レーダー網がオホーツク海沿岸地域に完成し、毎日の流氷分布情報を広く配信するようになった。以降、氷海域の最前線の研究拠点として、同施設が平成16年4月に閉鎖されるまで約39年間にわたって研究活動が行われ、その成果は漁業や観光業など、地域産業の振興や紋別市の発展に役立てられてきた。紋別観光の目玉である碎氷船ガリンコ号、氷海展望塔オホーツクタワーおよびアザラシ保護施設のオホーツクとっかりセンターなどは、観光客から人気が高いが、その一方で、紋別市は調査研究や教育にも力を入れており、これらの施設は国内外の研究者や大学院生の研究、大学の実習等に活用されている。また、昭和61年から30年以上にわたって「オホーツク海と流氷」をテーマとした北方圏国際シンポジウムを毎年2月に開催している。同シンポジウムでは、「海洋物理学」「極域工学」および「海洋生物学」の各分野の研究者が国内外から集結し、最新の研究発表の場として、活発な議論が行われている。



【碎氷船ガリンコ号】全長35m、150トン



【オホーツクタワー】  
流氷時期の氷海展望塔



【基調講演】平成29年2月20日  
大学院水産科学研究院  
安間 洋樹 准教授



【第32回北方圏国際シンポジウム】特別講演 平成29年2月19日  
左:著者、右:さかなクン

### 北海道大学北方生物圏フィールド科学センターとの研究交流

紋別市オホーツクとっかりセンターでは、怪我をしたり、衰弱したアザラシを保護して野生復帰させる活動をおこなっている。北方生物圏フィールド科学センターとの交流は、平成23年7月に紋別港で保護したゴマフアザラシ新生獣を回復させ、ガリンコ号を使ってリリースする際、三谷 曜子准教授(当時助教)により、衛星発信機が装着され、回遊経路を追跡する調査を実施したことから始まった。その後、平成24年度から3年間の共同研究を行い、合計6個体のアザラシに衛星発信機を装着することで、保護アザラシの野生復帰後の行動に関する貴重な情報を得ることに成功した。その間、教員、大学院生および学部生が何度も紋別市を訪れ、とっかりセンターのアザラシと接し



【シンポジウム閉会式】  
青田昌秋賞 海洋生物学部門受賞 平成29年2月22日  
大学院水産科学院 松原 直人氏(右から2番目)

ながら、バイオロギング研究を展開していった。近年、野生復帰まで回復する個体が確保できずにいるが、毎年、死亡した保護アザラシを学術研究用に北方生物圏フィールド科学センターに提供することで、研究交流を続けている。



【衛星発信機装着】  
ゴマフアザラシ幼獣



【回遊経路の追跡】三谷(2012)

### 北海道大学大学院水産科学研究院との研究交流

紋別市氷海展望塔オホーツクタワーはオホーツク海の海洋モニタリング拠点として、施設の供用を開始した平成8年から現在まで流氷時期を含めて毎日1回CTDによる水温・塩分の観測を行っている。また平成9年から平成25年まで毎日(16年間)、その後は今まで週に1回のペースでノルパックネットによる動物プランクトン採集が行われており、世界有数のプランクトンデータセットを濱岡コレクション(紋別市OBの濱岡莊司氏が在職中に採集)保有している。この膨大なデータセットの解析は、北の海のプランクトン研究において第一人者である大学院水産科学研究院プランクトン学講座の山口 篤 准教授との共同研究により平成25年度から行われ、現在も継続している。紋別市は、各種データとサンプルの提供、現場サンプリング、教員や大学院生の受け入れなどに協力し、低次海洋生態系の解明に向けた研究活動を行っている。紋別市に長期滞在している大学院生(博士後期課程)は、流氷～春季ブルーム～宗谷暖流水への切替り時期まで、刻々と変化していくオホーツク海を毎日見て、肌で感じながら、プランクトン研究に青春を捧げている。



【流氷時期の採泥作業】  
大学院水産科学院 有馬 大地氏



【顕微鏡写真】流氷時期のカイアシ類  
*Calanus glacialis*

### 最近の研究テーマ

平成28年からは、大学院水産科学研究院の藤森 康澄 教授の研究チームがオホーツクタワーの周辺をフィールドとし、水深約8mにある海底階のアクリル窓から外に向かってLED灯を点灯することで魚類に対する人工光源の集魚効果の調査を行っている。特に光の波長(色)を変えることによる魚種別の集魚



【集魚実験】オホーツクタワー海底階

状態や行動の変化を解析することで、漁業における人工光源のさらなる応用の可能性を調べている。また、安間 洋樹 准教授は魚類鳴音を用いた資源量計測手法の開発を目的として、タワー周辺の魚類が発する音を集音し、魚の個体数と鳴音との関係、さらに海洋交流館において水槽実験を行い、鳴音と行動、生理的特性との関係について解析を進めている。こうした研究の成果の一部は、すでに北方圏国際シンポジウムにおいても公表されている。さらに、紋別港内では、足立 伸次 教授の技術指導により、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター七飯淡水実験所および美深町からチョウザメを紋別市に搬入し、養殖研究としては前例がない海水飼育試験に挑戦している。チョウザメを海水中で飼育することにより高成長が期待でき、メスはキャビア生産まで期間短縮、オスは肉質が良くなり美味になる可能性がある。将来的には北海道内の地域をまたいだチョウザメ養殖の実現を目指している。



【チョウザメ飼育試験】



【水槽実験による鳴音計測】



【タワー周辺で計測された鳴音の記録頻度の一例】

## 観光施設への研究成果の活用

紋別市氷海展望塔オホーツクタワーは平成28年10月1日にリニューアルオープンした。その際、これまでに蓄積されてきた研究成果の一部が観光素材として提供された。海底階ではチョウザメの飼育技術を活かし、販売専用の「えさガチャ！」を併設した「チョウザメえさパク水槽」を北海道大学水産学部と美深チョウザメ館の協力によりオープンした。これまで海底階では海洋生物と触れ合う「タッチプール」の人気が高かったが、海洋生物がいじられすぎたり、強く握られたりすることで瀕死になってしまうことも多かった。一方「えさパク水槽」の場合は事情が異なる。チョウザメは餌が食べたいので、お客様に近づいて餌が欲しいとアピールする。お客様は間近のチョウザメに餌を与える楽しみがある（たまに手から直接餌を食べる個体もいる）。飼育管理者としては「えさガチャ！」の売上金が入る。皆がハッピーになる水槽のため、もうすぐ1年になるが死亡個体は1尾も無く、あっという間に成長していったので、近く、大きくなりすぎた個体を美深チョウザメ館に戻す予定でいる。

オホーツクタワー2階には360度の3D映像に振動と風が加わり、臨場体験できる超立体シアター「4D-KING」のオープンに合わせ、オホーツクタワーオリジナル作品が制作された。この作品は衛星発信機を装着して平成23年7月にリリースしたゴマファザラシの大回遊を子ども向けにアレンジした物語である。研究には母親から逸れてストランディングしたメス個体（通称：愛寿）が用いられたが、物語では母親に愛されるホワイトコート（白色の新生児毛）の男の子（アイス）がオホーツクの流氷の海を大冒険する設定とした。海底にはホタテガイを登場させ、外套膜にある約80個の眼点の代わりに沢山の目玉を配置した。ホタテガイが泳ぐ姿にも拘りを持たせ、殻を前方に開閉しながら、蝶番の両脇からジェット水流を後方に勢いよく噴射する様子を再現した。子ども向けではあるが、水産科学の情報をいくつか盛り込んだ作品となった。

現在、オホーツクタワー周辺で行っている集魚灯や魚類鳴声の研究を重ねていくことで、いずれ様々な魚介類をオホーツク

タワーの周辺に集めることができる日が来るかもしれない。次のリニューアルの時には、オホーツク海の龍宮城を目指してみたいと思っている。



【オリジナル作品】アイスの小さな冒険

## 今後の予定

紋別市の沖に広がるオホーツク海は、我が国唯一の氷海域であり、流氷の動向は沿岸域の漁業や生活・経済に直接影響するだけでなく、地域産業や環境保全など幅広い分野に対して重要な役割を担う。オホーツク海の流氷とともにやってくる栄養豊富な水が地域の基幹産業である漁業を支えており、水産科学技術の発展が地域の産業の活性化に役立てられている。紋別市にはかつて北海道大学低温科学研究所附属流氷研究施設があったことから、学術研究に協力的な地域であり、オホーツク海の研究拠点として、国内外の研究者、大学院生および学生の受入れを積極的に行ってきた。今後、紋別市と北海道大学大学院水産科学研究院および北方生物圏フィールド科学センターとの連携をさらに深めていくことで、最先端の科学技術が地域に導入されると同時に、学術、教育、文化及び地域振興の各分野において相互の発展が見込まれる。

【タワー海底階】チョウザメえさパク水槽





## 水産学部卒業生のつどい

# 講演会 水族館と保全活動

講師 荒井 一利氏（鴨川シーワールド総支配人）

日時 平成29年9月30日(土)  
14:00～15:30

場所 学術交流会館 第1会議室

参加申込  
不要



### profile プロフィール

鴨川シーワールド 総支配人。  
1955年生まれ。1979年北海道大学水産学部水産増殖学科卒業後、鴨川シーワールド入社。2007年館長就任、2015年6月より現職。2010年～2015年(公)日本動物園水族館協会副会長、会長を歴任。2015年より北海道大学水産学部非常勤講師。主な著書に『海獣図鑑』『日本の水族館(共著)』。

講演会終了後、同窓生との懇談会(30分程度)を開催する予定です。

学生諸君は、貴重な話が聞ける機会です。  
積極的にご参加ください。

### 会場案内図



# 会員の受賞

CONGRATULATIONS ON WINNING

## 荒井 克俊 氏(昭51ゾ) 南ボヘミア大学(チェコ共和国) 名誉学位受賞

水田 浩之(昭61ゾ)



写真 授賞式 左より荒井克俊教授、南ボヘミア大学総長 Thomas Machula教授、チェコ科学アカデミー動物生理学遺伝学研究所 Petr Rab教授

2017年3月1日に、南ボヘミア大学(チェコ共和国)から、本学教授・荒井克俊氏(昭51ゾ)に、水産科学分野で初めて、魚類遺伝学における顕著な研究業績に対して名誉学位Doctor Honoris Causa(第30号)が授与されました。授与式は、同国チェスケブジョビツツエ市セレモニーホールにおいて、南ボヘミア大学総長、学部長、チェコ国内各大学総長、副学長、科学アカデミー代表等の来賓列席のもと、同国の伝統的な式次第に則り執り行われました。南ボヘミア大学との学術交流は、同氏の尽力により2010年6月に部局間交流協定を締結し現在に至っています。同氏の受賞は、東欧における北海道大学の存在感を高め、水産学のグローバル化に著しく貢献するものであり、今後の一層の交流と研究の発展が期待されます。

CONGRATULATIONS ON WINNING

## 嵯峨 直恒 氏(特別会員) 平成28年度 日本水産学会功績賞受賞

水田 浩之(昭61ゾ)

### 研究内容

本学名誉教授・嵯峨直恒氏(特別会員)は、バイオテクノロジー技術や分子生物学的アプローチを水産植物研究の分野に一早く導入し、常に当該研究分野をリードしてこられました。また、海藻に関する研究を教育、組織、社会と結び付けるべく、その実質化を目指して永年にわたり尽力されてこられました。その功績が高く評価され、平成28年度日本水産学会功績賞「水産植物学研究を生かした社会連携の体系化」を受賞されました。



同氏は、主要な水産物の一つである海苔の優良種スサビノリをモデル実験生物として確立し、その大量種苗生産、クローン種苗生産や極低温下での半永久的種苗の保存等に関する応用研究を展開してこられました。得られた研究成果は、その後の海産大型藻類の増養殖分野の研究や産業的な技術革新の基礎となっています。学会運営にも積極的に取り組まれ、日本水産学会では、理事・北海道支部長・北海道支部評議員等を歴任され、平成26年度日本水産学会春季大会では大会委員長として重責を担うなど、水産学の教育研究の基盤となる組織の発展にも大きく貢献されました。

学術・教育・組織と社会との間の連携強化という課題にも果敢に取り組まれ、「函館国際水産・海洋都市構想」のもと、産学官連携による同構想の推進母体として「一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構」の設置並びに水産・海洋に関する国際的な学術研究拠点として「函館市国際水産・海洋総合研究センター」の設立に貢献されました。さらに、東北マリンサイエンス拠点形成事業「三陸沿岸域の特性やニーズを基盤とした海藻産業イノベーション」にも参画し、震災復興にも尽力され、津軽海峡圏の地域振興に大きく貢献してこられました。このように、同氏の水産学への貢献は極めて大きいものがあります。本受賞に際し、ここに心からお祝い申し上げますとともに、今後のご健勝とご活躍を祈念いたします。

# 会員の受賞

CONGRATULATIONS ON WINNING

## 今井 一郎 氏(特別会員) 平成28年度日本水産学会賞

澤辺 智雄(平元食)

本学特任教授(本学名誉教授)今井一郎氏は、有害有毒プランクトンの発生機構と発生防除に関する優れた業績により、平成28年度日本水産学会賞を受賞されました。日本水産学会の最高峰の栄誉ある賞を、海洋微生物の分野、特に赤潮研究分野では初めて受賞なさったこと、同分野に身をおく立場として、大変誇りに思います。

今井先生は、昭和52年に京都大学農学部水産学科卒業後、同大学院農学研究科を修了しました。その後、昭和55年から水産庁に奉職し、南西海区水産研究所にて、赤潮の発生機構の解明と防除対策に専心されてきました。平成6年には、京都大学大学院農学研究科の助教授に就かれた後、平成21年から我が北大水産科学研究院の教授として赴任され、数多くの優秀かつ個性的な人材育成にも尽力されております。平成28年には、特任教授として、現在も本学の教育研究に貢献いただいております。

今井先生は、長年にわたり水産環境保全及び海洋プランクトンの研究を先導し、特に有害有毒プランクトンに起因する赤潮と貝毒の発生機構及び発生防除に関する研究を発展させ、多くの新知見を得ております。その中でも、我が国で最大の赤潮被害を与えていたラフィド藻シャットネラの生理生態と生活環の解明は世界をリードする研究として高く評価されております。瀬戸内海の海底泥からシャットネラのシストを初めて発見したことを皮切りに、不斷の努力で、このシストの形成培養を見事に成功させ、それに続く形成条件も解明し、シャットネラのシストの形成と発芽



のサイクルを理解することに大きく貢献しております。

また、今井先生は、赤潮の防除対策にも取り組み、瀬戸内海から、赤潮種を含む生きた植物プランクトンを殺滅する殺藻細菌を数多く分離し、沿岸海域に殺藻細菌が生息することを実証しております。この成果は、北水に赴任なさった後も進展し、藻場やアマモ場の海水中に赤潮の発生とは無関係に赤潮プランクトンを殺滅する殺藻細菌が多数生息すること、特に、大型藻やアマモの表面に多くの赤潮藻殺藻細菌が付着している事を見いだしております。一連の成果は、海洋微生物学の新境地を開拓し、環境に優しい赤潮の生物的防除の一貫として「藻場やアマモ場の造成」という具体策の提案にもつながっております。さらに、今井先生は、有毒プランクトンに起因する貝毒の発生機構に関する研究も進展させ、麻痺性貝毒の最重要種である*Alexandrium*属のシストの密度が、北極海において世界最高レベルであることも見いだし、新境地も精力的に拓いております。

以上のように今井先生は、有害有毒プランクトンの研究分野で、評価が極めて高い研究成果を挙げ、ゴーダン会議を始め、国際学会やシンポジウム、ワークショップにも頻繁に招待され、かつ長きにわたり米国の研究ファンド「The Ecology and Oceanography of Harmful Algal Blooms(ECOHAB)」の評議委員の任にも就き、この分野を牽引し続けており、今井先生の水産学及び関連分野への貢献が絶大であることを推し量ることができます。

CONGRATULATIONS ON WINNING

## 鈴木 敏之 氏(昭63化) 青森県漁業協同組合連合会など 3団体から感謝状

板橋 豊(昭50化)

鈴木敏之氏(国立研究開発法人 水産研究・教育機関 中央水産研究所 水産物応用開発研究セン

ター長)に、青森県漁業関係3団体から「貝毒評価への機器分析法の導入によるホタテガイ産業への貢献」を称える感謝状が授与されました。

平成29年1月6日、むつ湾漁業振興会並びに青森県ほたて流通振興協会が主催となり、青森県知事や地元国會議員、ほたて生産者など200名以上が出席し「平成29年ほたて生産・販売関係者新年祝賀会」(青森県水産ビル)が開催されました。前年の青森県のホタテガイ生産額は200億円を突破し過去最高となりましたが、その要因として下痢性貝毒試験法(公定法)の変更が上げられています。すなわち、貝毒試験法が平成27年3月に、それまでの「動物試験」から鈴木氏を中心になって開発した「機器分析法」へ移行しましたが、それ以来、青森県では下痢性貝毒による出荷規制は1件もなく、より正確な測定ができる(遊離脂肪酸などによりマウスが死亡する偽陽性反応のない)機器分析法の導入が現在のホタテ産業の活況をもたらしたと言われています。この祝賀会で、鈴木氏が長年にわたり積み重ねてきた貝毒機器分析法の研究や規制対象毒成分の毒性評価研究を称えて、青森県漁業協同組合連合会、むつ湾漁業振興会、青森県ほたて流通振興協会の3団体が「感謝状」を贈呈したものです。

鈴木敏之氏は、水産化学科魚油化学講座を昭和63年に卒業し、その後同大学院に進学、博士後期課程修了後は農林水産省に入省、水産庁東北水産研究所に配属になりました。平成20年中央水産研究所に異動し、現在は同研究所水産物応用開発研究センター長の要職にあります。この間、同氏はCawthron Institute(ニュージーランド)、National Research Council Canada(カナダ)、Marine Institute(アイルランド)、Fish Inspection and Quality Control Division, Department of Fisheries(タイ国)の客員研究員や客員教授を歴任し、また、天然資源の開発利用に関する日米会議



「有毒微生物専門部会」、厚生労働省薬事食品衛生審議会委員、内閣府食品安全委員会専門調査委員、FAO/IOC/WHO二枚貝中の生物毒に関する専門家会議、FAO/WHO合同食品規格計画(魚類・水産製品部会、二枚貝中の生物毒に関する作業部会、CODEX Biotoxin Working Group)の専門委員を務めるなど国際的に活躍されています。また現在は、東京海洋大学と北里大学の客員教授として学生、院生の教育にも力を注いでいます。

我国は貝毒研究において常に世界をリードしていましたが、鈴木氏は、この伝統を着実に受け継ぎ、優れた研究成果を継続してあげてきました。平成19年には、「貝毒の精密分析法及び二枚貝の毒化機構の研究」が評価され、日本水産学会から「平成18年度水産学進歩賞」を受賞しています。今回は、鈴木氏のこうした基礎研究が産業に貢献した好例として高く評価されたものです。世界を牽引する貝毒研究者として、今後益々の活躍が期待されます。



## 笠井 久会 氏(平12資) 平成28年度 北海道科学技術奨励賞

吉水 守(昭47食)

### 「魚類の増養殖及び漁港・産地市場において 使用される海水の効果的殺菌法の開発」

笠井久会氏は、魚類の増養殖過程における疾患対策と漁獲直後から産地市場に至る間の水産物の衛生管理に関する研究の一環として、飼育用水および漁港の海水殺菌法に関する研究を行い、これらの成果は健康な種苗を生産する基礎を築き、漁港や産地市場で使用される海水の殺



# 会員の受賞

菌を可能にした。魚類病原微生物の紫外線・オゾン感受性を明らかにするとともに、海水を電気分解する際に生成する次亜塩素酸により殺菌効果を得る電解殺菌法の技術開発を行い、飼育用水とともにこれまで実用化が難しかった魚類飼育排水の殺菌も可能とした。さらに、増養殖の最終産物である食品としての水産物の安全性が求められていることから、漁港で使用する海水をはじめ漁港の岸壁・産地市場の床・魚箱等の洗浄に使用する殺菌海水の確保に関する研究を行い、紫外線殺菌装置や海水電解装置の小型化・簡素化を進め、各地の漁港および産地市場のみならず漁船にも搭載され、船体洗浄や漁港における水産物の衛生的な取り扱いの普及に貢献している。現在進められている衛生管理型漁港構築の基本設計に組み込まれ、腸炎ビブリオによる食中毒発生件数の減少に役立っている。同氏は、日本水産学会の水産学奨励賞を受賞したほか、日本国内の学会の評議員や幹事を複数務め、年齢や職階によらない活躍を見せている。また、水産科学研究院に40年ぶりに採用された女性教員であり、同研究院初の女性の准教授であることから、理系女性研究者及び若手研究者の良きロールモデルとして執筆や講演を重ねている。研究面においては、新たにサケマス類の卵期の疾病について原因究明や対策法の確立に向けた研究に取り組み、昨年からは国際獣疫事務局(OIE)のサケ科魚ヘルペスウイルス病のレファレンスラボ代表を務め、原因ヘルペスウイルスの潜伏感染機構や同ウイルスの腫瘍原性に関する基礎研究を行うなど、今後の水産業の振興にさらなる活躍が期待される。

CONGRATULATIONS ON WINNING

## 藤本 貴史 氏(平12生) 平成28年度 水産学進歩賞受賞

荒井 克俊(昭51ゾ)

藤本貴史氏は「ドジョウをモデルとした発生・生殖生物学と育種支援技術開発に関する研究」が評価され、日本水産学会の平成28年度水産学進歩賞を受賞されました。

藤本氏は平成17年に北海道大学大学院水産科学研究科博士後期課程を修了後、21世紀COEプロジェクト等の学術研究員・博士研究員(水産科学研究院、北方生物圏フィールド科学センター)を経て、日本学術振興会海外特別研究員に採用され、カナダに留学後、平成24年から北大大学院水産科学研究院准教授に着任し、現在に至っています。



ドジョウは人為排卵や人工受精が容易で、発生胚の観察や操作に適しているばかりか、野生集団に倍数体のみならずクローン生殖を行う系統が存在し、発生学・遺伝学的にユニークな特徴を持っています。藤本氏はこのドジョウの特性を利用して、魚類の発生・生殖生物学に関する研究や育種支援技術の開発を進めてきました。特に、生殖細胞の欠損による不妊化技術の開発では、従来、生殖細胞欠損個体はオスのみであり、卵巣形成には生殖細胞が必要なことが脊椎動物では定説とされていましたが、ドジョウでは生殖細胞がなくても卵巣構造が形成されメスが生じることを明らかにしました。これは脊椎動物における初の報告であり、魚類の多様な性分化を示唆し、モデル動物以外の魚種における研究の重要性を示しました。また、倍数体研究では、不妊とされてきた雑種三倍体が妊性を持つ事例や、妊性と考えられていた四倍体がゲノム構成によっては不妊となる事例を報告しました。すなわち、倍数性やゲノム構成が配偶子形成において強く関与し妊性に多大な影響を与えることを示し、人為交雑や倍数体誘起による確実な不妊化技術の開発に貢献しました。

これらの基礎的研究に加え、ドジョウの精子の凍結保存技術を開発するとともに、凍結保存した精子からの雄性発生による個体再生にも成功しました。さらに、卵や精子のもととなる始原生殖細胞の凍結保存とそれらを用いた生殖系列キメラ技術により、凍結細胞から個体を作り出す技法開発にも成功しました。これらの成果は基礎と応用の両面において先駆的かつ意義深いものであり、今後も水産学の発展に大きく貢献することが期待されます。

# 退職教員あいさつ

## 退職にあたって

今野久仁彦(昭49食)

この3月をもって、昭和56年以来奉職してきた北海道大学を退職することになりました。大過なく過ごすことができたのは皆様のおかげだと改めて感謝しております。学内外の方々との縁で今の自分がいると思います。最初の縁は、もちろん北大水産に入学ですが、卒論の研究室選択で「食品生物化学」という新しい学問分野を築いていた新井先生(昭和28セ)に師事したことがその後の人生を決めたと思います。次の縁は水産利用加工の重要性を教えていただいた当時水産庁中央水産研究所におられた藤井先生(昭28セ)です。大学院学生だった私は水産庁の赤身魚の高度利用に関するプロジェクトに参加し、初めて現場を訪問しました。その時、ゴムの前掛けをして藤井部長が先頭になり大量のイワシを処理する光景を見たのは大きなショックでした。同じようにはできませんが、現場の重要性とこの光景を忘れないできただつもりです。

新井先生には、利用加工は、基礎研究に基づいたものでなくてはならないということを教えてもらいました。生涯の研究課題となった魚介類の利用加工ですが、「魚肉」を扱っていることは「筋肉タンパク質」を扱っていることの認識です。また、「タンパク質は生きている」いう感覚である。この感覚をどれだけの学生に伝えられたか疑問ですが、縁があって私のところに来た学生、留学生には伝えてきたつもりです。また、在職中の多くの成果は彼ら学生の日々の努力によるもので、改めて感謝します。一貫して魚肉タンパク質の研究を行ってきたのですが、最後の5年は新井先生が魚肉タンパク質の研究を始める前の研究課題であった、刺身として消費するための魚介類の鮮度指標K値についての研究にも携わりました、縁を感じます。

北大退職後は、縁があり中国、大連の大連工業



大学敷地に昨年設置された国立の研究機関「国家海洋食品工程技术研究中心」で教授として勤務することになりました。予定では5月末には大連に居を移しているはずでしたが、今年から、中国政府の就業規定が厳しくなり、許可に時間がかかり、いまだに赴任できないでいます。シンポジウムなど当面はビザなしでの短期訪問で対応しています。研究所で遂行している実用研究を、基礎的な観点から論理的に強固にすることが私に求められているようです。研究分野は広範にわたり、自分の専門分野以外の勉強もしなければなりませんので、脳の活性化にも役立つでしょう。また、学部、大学院の英語での講義も求められていますので、優秀で素直な若い人達にどのくらい伝えることができるか楽しみでもあります。日本、北大水産と中国との架け橋にもなればと思い、しばらくここで生活する予定です。

## 退職のご挨拶

高橋是太郎(昭50食)



水産学部には、学部2年生として昭和47年に函館キャンパスに移行して以来、44年半もの永い間お世話になりました。その間、教員として37年間勤務し、多くの先輩の先生方から暖かい見守りと同時に叱咤も賜り、また後輩の先生方には計り知れないほど多くの場面で助けられ、支えられ、お蔭様で無事北大を退職することができました。この間、事務部の方々には見える部分は勿論のこと、気が付かないところまでしっかりとサポートして頂き、そのことも大過なく退職できた大きな理由だったと思っております。

永いようで、反面アッという間の40年間でしたが、当時と今とでは、やはり時代が大きく様変わりしたことを感じます。当時は問題にならなかったようなことが、今ではハラスメントの対象になったり、学生がはじめを外しても、且つては大目にみられていたことが、今では社会的に許されないものが多くなりました。

# 退職教員あいさつ

教育面では、例えば試験問題の出題様式一つにしても、こと細かな制約や厳格性が求められるようになりました。たとえ大学といえども基本的には社会正義に沿ったように振る舞うべきであり、このこと自体は正しいと思うのですが、反面、大学の伸び伸びとした利点が失われ、大輪の花が咲きづらくなったように思うと同時に、少々息苦しくなってきたように感じております。私は、特に定年間際になって、「北水の同窓生は多才且つ優秀な人が多い」と実感しておりますが、このことが各自の北水時代の「自由闊達」な風土が育んできた結果によるものか否かは、もう少し時間が経ってみないとわからないのかもしれません。

さて、私は2017年3月の定年退職後、同年4月より週30時間勤務の非常勤特任教授として、北見工業大学に勤務しております。私の任務は、大学のシーズを地域の活性化に生かすことですが、これが大変に難しく、難儀しているところです。例えば、北海道では水産廃棄物が大量に発生しますが、それを高度利用に資するには、既存の利害関係が絡む仕組みをどうやって改変するか、また北海道全体としては大量に発生していても、まとまった量を処理しなければ採算が合わないので、広い北海道でどうやって低コストに鮮度を維持した状態で集荷できるかが大きな課題になります。同窓諸氏の中で、この方策につきまして、もしもご助言を賜れがあれば、大変有難く存じます。

これからも宜しくお願ひ申し上げます。

## 退職のご挨拶

飯田 浩二(昭51ギ)

本年3月に約36年間務めた北海道大学を退職いたしました。赴任当時は管理研究棟や講義棟はまだ新しかったものの他の施設は古く、かつ貧弱で教育研究には十分とは言えませんでした。その後実験棟、第2研究棟、マリンフロンティア棟、マリンサイエンス棟、水槽センター等の新営と管理研究棟の大規模改修、そしておしょろ丸5世の竣工など、見る見るうちに学内施設も充実してきました。



この間、学科改組、大学院重点化、大学法人化と3度の改組を経験し、私が所属した講座も漁業測器学講座から生産システム設計学講座、資源計測学講座、海洋計測学講座と改名し小講座から大講座へと変りました。

子供の頃から沖を行く白い船の船長になることが夢でしたが、大学で受けた石田正巳先生の魚探機論で、水深1000mの深海には音速が極小となる層があり、そこに入った音はトラップされて何千キロも伝搬するという話を聞き、海洋音響学に興味を抱きました。鈴木恒由先生には魚探を用いたクッタラ湖のヒメマスの調査を勧められ、そこで機器の開発や

食中毒検査なら信頼と実績の中山薬品商会へ 一検体@1,000円～承ります。

NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD



株式会社 中山薬品商会

代表取締役 中山 一郎

本 社 ☎040-0075 函館市万代町20番10号 PHONE (0138) 40-6275・FAX40-3939  
釧路営業所 ☎084-0903 釧路市昭和町2丁目15番地3 PHONE (0154) 52-4101・FAX52-4103  
札幌出張所 ☎065-0031 札幌市北3条東19丁目6番14号 PHONE (011) 299-5493・FAX299-5493

<http://nakayamayakuhin.jp>

基礎研究を行うことができました。その後佐野典達先生のご理解を得て10か月の在外研究を経験することができ、研究フィールドも噴火湾から外洋へ、研究内容も計量魚群探知機からソナーや音響カメラ等へと広がり、我が国の音響資源研究に少しばかりの貢献ができたと思っております。教授になってからは国際交流委員長、日韓拠点大学交流コーディネーター、副研究委員長、評議員等を拝命し大学の運営にも多少の貢献ができたと思っております。また北水同窓会の幹事長就任中の2011年3月11日に発生した東日本大震災では多くのOBが被災され、尊い3名のOBが亡くなり痛恨の極みでした。北水同窓会として急遽義援金の募集に取り組むことになり同窓諸氏の暖かいご協力で被災されたOBに若干の支援ができたことを誇りに思います。

近年は新幹線が新函館北斗駅まで開通し、管理研究棟と講義棟が改修され、函館ドック跡地には函館国際海洋センターが新設されるなど、大学を取り巻く環境も大きく改善されました。現職を去り外から大学を見ると函館は地理、歴史、景観、食文化等に恵まれ、世界的にもまれな魅力ある港町です。そこに立地する北海道大学での研究を夢見て世界中から優秀な学生が集まるように、さらなる母校の発展を望みます。

私ごとですが、退職後はしばらく函館にとどまり、趣味のヨットクルージングを満喫するとともに、留学生の受け入れをきっかけに身についた中国語を活かして地域の国際交流活動などに貢献したいと考えている今日この頃です。

最後になりましたが、36年もの長きにわたり、母校で充実した教員生活を続けてこれたのも、良き学生に恵まれ、多くの教職員そして同窓諸氏のご支援の賜物と感謝申し上げます。長い間本当にありがとうございました。

## 退職のご挨拶

平石 智徳(昭51ギ)

今の研究棟が建った翌年に函館に移行以来ほぼ40数年間は函館に暮らしてきたことになります。改築とともに札幌勤務となりその後退職となったことから新しくなった研究室を体験することができなかつたことは残念です。退職からはや三ヶ月を過ぎてすこし落ち着いてきておりますが書籍や物品の整理が思うようにいかないこの頃です。



北の大地にあこがれて北海道大学を受験し、合格したものの前年までの学生運動の余波で入学式もなく、卒業証書を頂いて確かに北海道大学に入学したことを確信したように思います。水産学部を志望したのは海と船にあこがれたためですが、私の生まれ育った四国徳島で遊んだ紀伊水道、瀬戸内海の海とは違った魚介類の宝庫である北海道の海とそこに生息する生物を見て、捕って、味わってこれらの資源の大切さを知ることができたのは大きな喜びです。

私が卒業論文から始めた魚介類の遊泳運動に興味を持ったのは3年生の夏期の黒木敏郎先生の集中講義でホタテ貝が泳ぐことを教えて頂いたことからです。その縁で漁具設計学講座を志望し、その後同講座の教官として研究、教育活動を続けることができました。指導していただいた先生方に感謝しております。佐藤修先生にはスキューバダイビングを教えていただき、北海道の数多くの沿岸に潜り、海中での実際の生物の行動や生態を知ることが出来たことは観察・測定の重要性を実感し、その後の私の研究に大いに役立っています。さらには石垣島まで潜りに行くことになりました日本の北と南の海の違いを改めて感じることもできました。これらは漁業技術として刺網、桁網、カニかごなどで漁獲対象生物の調査に必要な生物の行動学的、生理学的な研究と併せて漁具の漁獲過程の解析を進めることができたと思っています。魚介類の遊泳については遊

## 退職教員あいさつ

泳形状の測定を行うことを主な仕事としてきましたが、近年では映像技術やテレメトリー、ロガーの性能向上が著しく、これまでに不可能であった実物の運動や行動が直接的に測定、解析が可能になってきています。このような新しい手法を開発、駆使して未知の海洋での生物の行動、運動の知見を次の世代の人たちが見せてくれると期待しています。

北海道大学も4学期制への移行などで大きな変革の時代を迎えていますが、着実に進展されることと確信しております。最後に在職期間にお世話になった多くの方々に感謝します。

### 退任そして新たな水平線へ

山下 成治(昭54ギ)

出来の悪い学生時代の癖が今なお治らず、かといって直そうともせず、本年3月末に44年間続けた漁業の研究教育に終止符を打ちました。北大では在るけれど、水産であること、漁業分野で働けたことに、大いなる誇りと自負を持っています。



大学改組前は漁業機械工学が専門で、漁業機械や全自動浮沈生簀給餌システムの試験開発、噴火湾における海洋環境リモートセンシングブイシステムの構築など、漁業工学分野を中心とした活動を行いました。この時期に、生産管理工学と漁業経営学および人間工学を複合させた漁業生産システムの最適化に関するシステムズアプローチができたことに喜びがあります。

改組後は漁業生産に連なる、環境情報・資源利用・物流・販売・消費までの、いわゆるフードシステムの課題について研究教育を行いました。「地域課題はそれぞれの現場に即して生起する」ことを前提として、北海道の沿岸漁業地域の課題整理と問題解決を、地元自治体と住民協議会等と協働しながら進めましたが、この時点から、国交省・水産庁および北海道庁の漁港整備計画を中心とした対外的社會業

務が多くなりました。ゼミ生さんを中心に、地域振興および漁村地域計画のフィールドワークと沿岸漁業地域での学術発表・勉強会など、今で言うところの「地域教育活動(インターメディエータアクティビティ)」を始めたことが忘れられません。

これらの御縁により、保育・音楽・美術・地域社会を有する小さな道都の私大において、今年から社会連携を図る仕事に就いています。

これまで振り返ると、多くの北水魂が集った、特に、「船」という苦楽困難を共に乗り越えなければならない環境において、知識や技術などの表象から己の奥底へと染み込んでいった仲間への想いと自己規則が、再び己の心身を通じて北水魂へと戻っていましたように思えます。このバトンタッチが當々と継けられ、消えることのない北水の伝統が産まれ、若者らを惹きつけずにはおれない「水産の大学」に至ったのだ、と気づかされました。まさに環境が人を創る。良い人は、その人の良さを存在させる環境にこそ、在る。そういう水産学部でありつづけて欲しい。それだけの自律性とポテンシャルが函館の北大水産学部には在るのだ、ということを忘れずにいます。

長い間、ありがとうございました。御礼の心を込めて、本年退任いたします。 草々

### 長谷 成人氏(昭56ゾ) 水産庁長官就任

平成29年7月4日(火)に農林水産省会見室にて行われました農林水産大臣記者会見において、7月10日付で長谷成人氏(昭56ゾ)を任命することが発表されました。同氏の水産庁長官就任は、私たち同窓生にとりまして大変嬉しく誇らしいものです。今後のご健勝と益々のご活躍を祈念いたします。

第97回

# 北水同窓会定期総会報告

## 北水同窓会総会の報告

- 開催日時：平成29年5月27日(土)
- 会場：青森市 ウエディングプラザ アラスカ 4階ダイヤモンドの間

平成28年度北水同窓会第97回定期総会は、平成29年5月27日(土)午後6時から青森市新町のウエディングプラザ アラスカにおいて行われました。青森市での開催は、平成22年以来7年ぶりとなります。

総会は、青森支部 池田康(昭51ギ)副支部長の司会により開会し、冒頭、平成28年度の親潮に掲載されました85名の物故者に対し、慎んで哀悼の意を表して黙祷を捧げました。

横山清(昭35エ)同窓会会长、名誉会長代理の川合祐史(昭55食)北大教育研究評議会評議員からそれぞれ挨拶をいただいた後、議長には青森支部の吉田由孝(昭56ゾ)支部長が選出され、議事に入りました。

荒井幹事長ほか各幹事より平成28年度事業経過報告など二つの議案が報告・説明され、各議案はすべて承認されて終了しました。

総会終了後、青森支部 金澤保(昭56化)副支部長の司会により懇親会が始まりました。

始めに、札幌からお越しいただきました来賓の北海道大学理事・副学長の長谷川晃様と、国会議員の中で唯一の水産学博士としてご活躍されている参議院議員横山信一(昭58ギ)様からご挨拶をいただき、八戸支部中村良一(昭39ギ)支部長による乾杯の発声で歓談に入りました。

しばし歓談の後、アトラクションとして、地元青森市を中心に活躍している山上進氏による津軽三味線の演奏があり、荒井幹事長夫人の太鼓とのコラボでは拍手喝采を受けました。続いて、青森支部の平野忠(昭46ゾ)

氏が代表・指揮をしているピッコーラ・マンドリーニによるマンドリン演奏が行われました。

その後、遠路はるばる県外からご参加いただきました方々を紹介し、吉田由孝青森支部長から次回開催地である大阪府支部の佐々木雅人(昭56化)支部長に本部旗の引継ぎが行われました。

この間も歓談は和やかな雰囲気で進み、地元青森県をはじめ、北は札幌市から南は大阪府までの出席者73名の皆さまは活発に交流され、各円卓は大いに盛り上がっていました。

旧交を温めあった楽しいひとときも過ぎ、恒例の寮歌齊唱に移り、都ぞ弥生は吉田由孝青森支部長、水産放浪歌は青森支部の二本柳茂(昭57ギ)氏の前口上により、全員肩を組み一つの輪になって声高らかに齊唱しました。

最後に青森支部の佐藤立治(昭36エ)顧問による中締めの挨拶と凛とした三本締めにより懇親会はお開きとなりました。

第97回定期総会の開催にあたり、事前に種々ご教示をいただきました本部幹事の皆様、土産品の提供にご協力いただきました中泊町・八戸いか釣協議会・青森県ほたて流通振興協会、そして総会の準備、運営に協力をいただいた青森・八戸支部役員の皆様に、この紙面をお借りして御礼と感謝を申し上げます。

皆様、来年は大阪府でまた元気にお会いいたしましょう!

青森支部幹事長 山口伸治(昭49化)

## 式 次 第

### 定期総会

司会 金澤 保(昭56化)

- 開会の辞…青森県支部副支部長 池田 康(昭51ギ)
- 議長選出  
議案第1号 平成28年度事業経過報告および会計決算報告  
……………幹事長 荒井 克俊(昭51ゾ) 他
- 議案第2号 平成29年度事業計画および予算案  
……………幹事長 荒井 克俊(昭51ゾ) 他
- その他
- 閉会の辞…青森県支部副支部長 池田 康(昭51ギ)

### 懇親会

司会 金澤 保(昭56化)

- 歓迎のあいさつ…青森支部支部長 吉田 由孝(昭56ゾ)
- 来賓のあいさつ  
……………北海道大学理事・副学長 長谷川 晃
- 乾 杯 ………………八戸支部長 中村 良一(昭39ギ)
- 歓 談
- 北水同窓会本部旗の引継ぎ
- 寮歌齊唱(都ぞ弥生・水産放浪歌)

## 第97回 北水同窓会定期総会報告

### 水産放浪歌

(前口上)

富貴名門の女性に恋するを純情の恋と誰がいうぞ  
暗鬼紅灯の巷に  
彷徨う女性に恋をするを不情の恋と誰がいうぞ  
雨降らば雨降るもよし風吹かば風吹くもよし  
月下の酒場にて媚を売る女性にも純情可憐なる者あれ  
女の膝枕にて一夜の快楽を共に過さずんば  
人生夢もなければ恋もなし  
響く雷鳴 握る舵輪 睨むコンパス六分儀  
吾等海行く鷗鳥 さらば歌わん哉  
吾らが水産放浪歌  
一 心猛くも鬼神ならず 男と生れて情はあれど  
母を見捨てて浪越えてゆく 友よ兄等よ何時また会わん  
二 朝日夕日をデッキに浴びて 続く海原一筋道を  
大和男子が心に秘めて 行くや万里の荒波越えて  
三 波の彼方の南氷洋は 男多恨の身の捨てどころ  
胸に秘めたる大願あれど 行きて帰らじ望みは待たじ

### 都ぞ弥生(明治45年寮歌)

横山芳介君 作歌 赤木顕次君 作曲

(前口上)

我等が3年を契る絢爛のその饗宴はげに過ぎ易し  
然れども見ずや穹北に瞬く星斗永久に雲りなく  
雲とまがふ 万葉の桜花 久遠に萎えざるを  
寮友よ徒に明日の運命を歎かんよりは 榆林に篝火を焚きて  
去りては再び帰らざる若き日の感激を謳歌はん

- 一 都ぞ弥生の雲紫に 花の香漂ふ宴遊の筵  
尽きせぬ奢に 濃き紅や その春暮れでは移らふ色の  
夢こそ一時青き繁みに 燃えなん我胸想ひを載せて  
星影冴かに光れる北を  
人の世の清き国ぞと あこがれぬ
- 二 豊かに稔れる石狩の野に 雁遙々沈みてゆけば  
羊群声なく牧舎に帰り 手稻の嶺黄昏こめぬ  
雄々しく聳ゆる榆の梢 打振る野分に破壊の葉音の  
さやめく甍に 久遠の光り  
おごそかに 北極星を仰ぐ哉

### ■出席者

#### 〈特別参加者〉

長谷川 晃 (総長代理) 理事・副学長  
横山 清 (昭35エ) 会長  
川合 祐史 (昭55食) 名誉会長代理  
荒井 克俊 (昭51ゾ) 幹事長  
足立 伸次 (昭55ゾ) 副幹事長  
清水 宗敬 (平3ギ) 会計部  
井尻 成保 (平4ゾ) 組織部  
平松 尚志 (平5ゾ) 庶務部  
宇治 利樹 (平18生) 編集部

伊藤 博夫 (昭41ギ) 青森

小川 弘毅 (昭42ゾ) 青森

高橋 芳典 (昭43食) 八戸

山口 眞 (昭44エ) 愛知

平野 忠 (昭46ゾ) 青森

原 彰彦 (昭46ゾ) 函館

奈良岡修一 (昭47ギ) 青森

原口 健二 (昭47ゾ) 青森

山口 伸治 (昭49化) 青森

池田 康 (昭51ギ) 青森

松尾 広 (昭51化) 青森

宝多 森夫 (昭51ゾ) 青森

末岡 順 (昭51ギ) 札幌

越智 雅博 (昭51ギ) 余市

浜谷 一郎 (昭51化) 東京

伊藤 良博 (昭53ゾ) 青森

天野 勝三 (昭54ゾ) 青森

神保 重孝 (昭54ギ) 愛知

川村 俊一 (昭56ギ) 青森

二木 幸彦 (昭56ギ) 青森

金澤 保 (昭56化) 青森

吉田 由孝 (昭56ゾ) 青森

佐々木雅人 (昭56化) 大阪

工藤 敏博 (昭56化) 八戸

二本柳 茂 (昭57ギ) 青森

野呂 恭成 (昭57ゾ) 青森

横山 信一 (昭58ギ) 函館

対馬 廉介 (昭59ギ) 青森

菊谷 尚久 (昭59ゾ) 青森

山中 崇裕 (昭62ゾ) 青森

吉田 達 (平元ゾ) 青森

蝦名 浩 (平2ゾ) 青森

吉田 雅範 (平4ゾ) 青森

田中 淳也 (平8化) 青森

東野 敏及 (平11生) 青森

藤田 敏明 (平11博ゾ) 八戸

竹谷 裕平 (平13資) 青森

小谷 健二 (平13生) 青森

前多 隼人 (平15資) 青森

福田 覚 (平15博水) 青森

田澤 亮 (平16海生) 青森

小谷みつ美 (平19生) 青森

石川 清隆 (平19海生) 八戸

泉 ひかり (平23ゾ) 青森

松谷 紀明 (平23ゾ) 八戸

下斗米 光 (平24海資) 青森

長野 晃輔 (平25海生) 青森

成田 留衣 (平28ゾ) 青森

折野 一樹 (平28海資) 青森

#### 〈参加者〉

山形 實 (昭23ギ) 青森  
齋藤 健 (昭23ゾ) 青森  
高橋 邦夫 (昭28ゾ) 青森  
田向 健二 (昭30ギ) 青森  
山崎 文雄 (昭33ゾ) 函館  
佐藤 立治 (昭36エ) 青森  
秋葉 文和 (昭37ギ) 青森  
又井 一宣 (昭37ギ) 青森  
菅野 淳記 (昭37ゾ) 青森  
中村 良一 (昭39ギ) 八戸  
足助 光久 (昭40ゾ) 青森  
山内 寿一 (昭40セ) 八戸  
横山 勝 (昭41ゾ) 青森

## ■総会次第

### 1. 開会の辞

青森県支部副支部長 池田 康(昭51ギ)

### 2. 議長選出

### 3. 議案第1号

平成29年度事業経過報告および

会計決算報告

#### (1)一般経過報告

幹事長 荒井 克俊(昭51ゾ)

#### (2)庶務部報告(資料1)

庶務部 平松 尚志(平5ゾ)

#### (3)編集部報告(資料2)

編集部 宇治 利樹(平18生)

#### (4)組織部報告(資料3)

組織部 井尻 成保(平4ゾ)

#### (5)会計部報告(資料4)

会計部 清水 宗敬(平3ギ)

#### (6)会計監査報告

監 事 清水 晋(昭53ギ)

### 4. 議案第2号

平成29年度事業計画および予算案

#### (1)平成29年度役員改選案(資料5)

庶務部 平松 尚志(平5ゾ)

#### (2)平成29年度事業計画案

幹事長 荒井 克俊(昭51ゾ)

#### (3)第98回(平成29年度)定期総会開催地

(大阪)について

幹事長 荒井 克俊(昭51ゾ)

#### (4)平成29年度予算案

##### 1.会計部予算案(資料6)

会計部 清水 宗敬(平3ギ)

##### 2.編集部予算案(資料7)

編集部 宇治 利樹(平18生)

##### 3.組織部予算案(資料8)

組織部 井尻 成保(平4ゾ)

### 5. その他

### 6.閉会の辞

青森県支部副支部長 池田 康(昭51ギ)

## ■平成28年度庶務部報告(資料1)

### 1) 新入会員数

海洋生物科学科	54名
海洋資源科学科	38名
増殖生命科学科	49名
資源機能化学科	51名
大学院(他大学、他学部出身者)	
修 士	8名
博 士	7名
合 計	207名

### 2) 本年度物故者(平成28年度親潮掲載分)

正・準会員	85名
名誉、特別会員	0名
合 計	85名

### 3) 会員現在数(3月10日現在)

正・準会員総数	15,370名
物故正・準会員数	3,286名
正・準会員現在数	12,084名
(内準会員数)	(17名)
特別会員数	72名
会員数合計	12,158名

### 4) 新入会員を含めた会員現在数(3月10日現在)

合 計	12,365名
-----	---------

## ■平成28年度編集部報告

(親潮発行)(資料2)

	号数	発行年月日	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
予 算	307号	平27年8月末	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,500	1,000,000	※1
	308号	平28年2月末	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,500	1,000,000	※1
	合計		64	17,000	2,000,000	
決 算	307号	平27年9月25日	本誌 28頁 (内カラー6頁)	8,500	929,934	※1
	308号	平28年3月6日	本誌カラー 28頁 (内カラー7頁)	8,500	939,114	※1
	合計		60	17,000	1,869,048	

※1 印刷会社:(有)三和印刷 印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む

## ■平成28年度組織部報告

(名簿会計)(資料3)

	項 目	予算額	決算額	摘要
取 入	前 年 度 繰 越 金	609,068	609,068	
	一般会計より繰入	1,200,000	1,200,000	
	受 取 利 子	198		名簿積立金
支 出	合 计	1,809,068	1,809,266	
	次 年 度 繰 越 金	1,809,068	1,809,266	
合 计		1,809,068	1,809,266	

(繰越金の内訳 ゆうちょ銀行 1,809,266円)

# 第97回 北水同窓会定期総会報告

## ■平成28年度 会計部報告(資料4)

## 1) 平成28年度 一般会計決算報告

項 目		予算額	決算額	摘要
収入	前年 度 緑 越 金	1,831,435	1,831,435	
	費 料 入	7,600,000	7,270,500	
	会 親 雜	180,000	240,000	1774名 予算1900名 ※総会旅費未使用分含む
合 計		9,711,435	9,999,056	
支出	親 潮 印 刷 費	2,000,000	1,869,048	(資料2)親潮 発送費2回分含む 青森開催
	通 信 ・ 運 搬 費	1,600,000	1,631,345	
	總 組 織 強 化 費	300,000	300,000	
	ホームカミングデー 費	800,000	793,750	
	備 消 会 振 事 備 日 雜 品	200,000	28,000	
	耗 耗 品	0	0	
	会 議 費	180,000	100,278	
	替 手 書 費	30,000	26,000	
	務 教 託 費	180,000	157,543	
	P A O M A 名 簿 予 次 年 度	2,320,000	2,313,422	
合 計		661,435	0	積立 (資料3)

収支差引額(平成29年度に繰越)1,387,434円  
(繰越金の内訳:銀行預金 1,339,405円、現金48,029円)

## 2) 平成28年度 OA機器整備費(積立)決算報告

	項 目	予算額	決算額	摘要
取入	前 年 度 繰 越 金	268,944	268,944	
	一 般 会 計 よ り 積 立	50,000	50,000	
	受 取 利 子		22	
合 计		318,944	318,966	
支出	パソコン・プリンタ買替		244,159	
	メンテナンス料		12,000	
	次 年 度 繰 越 金	318,944	62,807	
合 计		318,944	318,966	

(繰越金の内訳 ゆうちょ銀行 62,807円)

■ 會計監查報告

北水同窓会の平成28年度における会計監査を実施した結果を下記のとおり報告致します。

三

平成29年3月14日

1. 監査対象期間　　自 平成28年3月16日  
至 平成29年3月10日

2. 出納簿は、関係書類と対査の結果適正である。  
3. 現金及び預貯金は、出納簿に照合し適正である。

駕車

清六晋



駁 事

河原武則



以上

## ■平成29年度 役員改選案(資料5) [○は新任]

会長 横山 清(昭35エ)

名誉会長 安井 肇(〃55ゾ)

副会長 鈴木 賢一(〃36セ)

吉野 生壯(〃37ゾ)

樋口 達夫(〃50食)

代表理事 ○荒井 克俊(〃51ゾ)

学内理事 矢部 警衛(〃51ゾ)

中谷 敏邦(〃52ギ)

梶原 善之(〃53ギ)

宮澤 孝彦(〃53ギ)

尾木 男(〃54化)

木川 暢祐(〃55ギ)

足立 伸史(〃55食)

山本 次(〃55ゾ)

工藤 勉(〃57化)

関山 秀司(〃57化)

高木 省吾(〃58ギ)

都彰(〃59ゾ)

岸木 靖栄(〃60化)

向井 穀毅(〃61ギ)

亀井 佳徹(〃61ギ)

水宗 浩彦(〃61ゾ)

高橋 弘幸(〃61修ギ)

安藤 哲也(〃63ギ)

今藤 靖浩(〃63化)

○大西 広央(〃63ゾ)

○坂桂一郎(〃元ギ)

○高木 力(〃元ギ)

○田中 啓之(〃元化)

○丸山 英男(〃元化)

○澤辺智雄(〃元食)

監事 河原武則(〃43エ)

清原晋(〃53ギ)

学外理事 中村哲也(〃28セ)

大島栄一(〃30エ)

富田幸二(〃30セ)

服部保次郎(〃31エ)

箕田嵩(〃31ゾ)

高野和則(〃32ゾ)

高島優(〃33エ)

山崎文雄(〃33ゾ)

米梨義昭(〃34セ)

梨本勝昭(〃36ギ)

小祝良介(〃36エ)

大割了(〃37ギ)

繪面 良一(昭37セ)

河古 章弘(〃37ゾ)

麦井 恒雄(〃37ゾ)

西谷 泰義(〃38セ)

天下井 清次(〃39エ)

菅野 泰征夫(〃40エ)

小越 昇(〃40セ)

木村 德雄(〃41セ)

猪上 幸好(〃41ゾ)

岸平 富男(〃42ギ)

山本 勝太郎(〃42ギ)

池田 勉(〃43ゾ)

仲谷 一宏(〃43ゾ)

高橋 豊美(〃44エ)

工藤 昭彦(〃44ゾ)

志高 直信(〃44ゾ)

伊藤 悅郎(〃45ギ)

三佐川 介(〃45ギ)

川嶽 滉(〃45ギ)

田嶽 满(〃45化)

藤嶽 晃(〃45ゾ)

賀嶽 彰彦(〃46ゾ)

藤嶽 重雄(〃47ギ)

橋嶽 敏美(〃47ギ)

橋嶽 斗(〃47食)

橋嶽 守(〃47食)

橋嶽 道則(〃47ゾ)

橋嶽 俊一(〃48ギ)

橋嶽 幸造(〃48食)

橋嶽 憲(〃48ゾ)

橋嶽 正人(〃48ゾ)

橋嶽 威(〃49ギ)

木嶽 雄(〃50食)

中嶽 幹一(〃50化)

上嶽 廣慶(〃51化)

○飯田 浩二(〃51ギ)

○平石 智二(〃51ギ)

増田 宣徳(〃51化)

長谷川 泰泰(〃52食)

上野 荣治(〃53ギ)

沼野 孝雄(〃53ギ)

野野原 俊二(〃53ギ)

久仁夫(〃53化)

備前悟(〃53化)

広淳一(〃55ギ)

正悦郎(〃55ギ)

宮秀昌(〃55ゾ)

岡正一(〃56ギ)

西貴司(〃56食)

種田公美(〃57ギ)

藤田一(〃57食)

林良則(〃57食)

学外幹事 阿部 純也(昭58ギ)

横山 信一(〃58ギ)

佐藤 直孝(〃58食)

岡野 吉也(〃60食)

岡崎 伸司(平1ギ)

柳町 永也(〃4化)

阿部 琢也(〃5化)

岡田 太介(〃22海生)

地方理事 (稚内) 風祐成(昭41ギ)

(留萌) 片岡正幸(〃48ゾ)

(紋別) 葛西靖(〃42ゾ)

(網走) 未穂恭博(〃53ギ)

(根室) 葛西隆司(〃46化)

(釧路) 藤村裕(〃24セ)

(旭川) 佐木裕(〃48食)

(十勝) 木村実(〃45食)

(苦小牧) 矢島孝(〃45食)

(室蘭) 林明(〃38ゾ)

(札幌) 清和(〃43化)

(札幌) 弘茂(〃45ゾ)

(札幌) 肇均(〃45ゾ)

(余市) 田井立治(〃36エ)

(青森) 須島一(〃40セ)

(八戸) 遠山村(〃48ゾ)

(秋田) 奥村彰(〃50ギ)

(村山) 佐山立太(〃54ゾ)

(庄内) 佐佐木勇(〃62ギ)

(盛岡) 作敬(〃56ゾ)

(宮古) 久禎(〃56ゾ)

(釜石) 小野田禎(〃42ギ)

(仙台) 千葉秀雄(〃53ギ)

(石巻) 岩城健朗(〃46ゾ)

(気仙沼) 朝日一(〃44ゾ)

(福島) 岩城時夫(〃44ゾ)

(茨城) 友川晴(〃41ゾ)

(栃木) 川田健治(〃56食)

(埼玉) 岩田忠治(〃44ゾ)

(館山) 安藤五郎(〃39ゾ)

(銚子) 福島良徳(〃54食)

(千葉) 岩崎喜裕(昭56ゾ)

(東京) 佐藤肇(〃40ギ)

(神奈川) 金城正樹(〃57化)

(新潟) 宮島英雄(〃42ギ)

(長野) 里垣坦(〃37ゾ)

(静岡) 道泉武郎(〃45エ)

(富山) 泉五郎(〃42セ)

(石川) 五郎(〃39ゾ)

(福井) 徳山徹(〃54食)

(愛知) 望月皓(〃44エ)

(京都) 藤山裕(〃54化)

## 第97回 北水同窓会定期総会報告

(滋賀) 澤田宣雄(昭57ゾ)  
 (三重) 石川輝(平2ゾ)  
 (大阪) ○佐々木雅人(昭56化)  
 (兵庫) 中岸明彦(平元ギ)  
 (和歌山) 丸山清重(昭55ゾ)  
 (鳥取) 山本栄一(〃52ゾ)  
 (岡山) 鈴木伸一(〃50ギ)  
 (広島) 羽原浩史(〃55化)  
 (島根) 児玉太一(平12生)  
 (関門) 萬年信一(昭37工)  
 (香川) 小野知足(〃34ゾ)  
 (愛媛) 桑原彰三(〃53ゾ)  
 (徳島) 宮本孝則(平元ギ)  
 (高知) 蒲原幸男(昭49ギ)

(福岡) 村上憲男(昭51ギ)  
 (佐賀) 高橋寛昌(平13海)  
 (長崎) 渡辺康憲(昭51化)  
 (熊本) 安田広光(〃58食)  
 (大分) 武田晴美(〃56ギ)  
 (宮崎) 香川浩彦(〃51ゾ)  
 (鹿児島) 松岡達郎(〃52ギ)  
 (沖縄) 渡辺利明(〃52ゾ)  
 (韓国) 李春雨(平3博ギ)

### 平成29年度 本部常任幹事直通電話番号

市外局番(0138)	
幹事長 ○水田 浩之(昭61ゾ)	40-5534
副幹事長 足立 伸次(昭55ゾ)	40-5545
庶務部 高木 力(平元ギ)	40-8838
○山本 潤(平5ギ)	40-8017
会計部 ○大西 広二(平元ギ)	40-8845
美野さやか(平22増生)	40-5570
編集部 ○工藤 秀明(平3ゾ)	40-5602
宇治 利樹(平18生)	40-8864
組織部 中谷 敏邦(昭52ギ)	40-8821
○石原 千晶(平22海生)	40-5548
事務局 吉田 秀美	42-3681

## ■平成29年度 会計部予算案(資料6)

### 1) 平成29年度 一般会計予算案

項目		予算額	摘要
収入	前年度繰越金	1,387,434	2,100名見込み
	親潮広告料入	8,400,000	
	会員費	180,000	
	雑費	100,000	
合計	10,067,434		
支出	親潮印刷費	2,000,000	(資料7) 親潮発送費(2回分)含む 大阪開催 ※
	通信費	1,600,000	
	会議費	700,000	
	旅費	800,000	
	強化費	200,000	
	ホームページ運営費	0	
	品会費	180,000	
	消耗品	30,000	
	議費	180,000	
	手数料	2,320,000	
合計	10,067,434		

\*総会補助30万円、本部役員会補助10万円、卒業祝い品10万円、各支部との交流補助(支部総会出席等)10万円を含む。

### 2) 平成29年度 OA機器整備費(積立)予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	62,807	50,000
	一般会計より積立	50,000	
支出	合計	112,807	
	次年度繰越金	112,807	
合計	112,807		

### 3) 平成29年度 特別会計予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	19,315,899	
	合計	19,315,899	
支出	次年度繰越金	19,315,899	
	合計	19,315,899	

### ○平成29度 特別会計資産内容

	項目	資産額	摘要
郵便定期貯金	2口	8,380,000	
銀行定期預金(マリンバンク)	1口	10,935,693	
現金	206	206	
合計	計	19,315,899	

## ■平成29年度 編集部予算案

(親潮発行)(資料7)

号数	発行年月日(締切り)	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
309号	平29年8月末(7月10日)	本誌 32頁(内カラー7頁)	8,500	1,000,000	※1
310号	平30年2月末(1月10日)	本誌 32頁(内カラー7頁)	8,500	1,000,000	※1
	合計	64	17,000	2,000,000	

\*1 印刷会社:(有)三和印刷  
 印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む。

## ■平成29年度 組織部予算案

(名簿会計)(資料8)

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	1,809,266	名簿積立金
	一般会計より繰入料	1,200,000	
支出	合計	4,509,266	
	名簿印刷費	3,500,000	
支出	通信運搬費	300,000	次年度繰越金
	次年度繰越金	709,266	
合計	計	4,509,266	

## クラス会 報告

### 昭和47年卒 水産食品学科同窓会の報告

吉水 守(昭47食)



前列左より  
丸山・藤島・木部・近江・猪股・根尾・本居  
後列左より  
図師・加藤・熊崎・宇賀神・岸・喜多・吉水

今年4月18日ホテルラビスタ函館に宿泊し、斜め隣りの紫せんで昭和47年水産食品学科卒の同窓会を開きました。在京の同窓生が時々声をかけ合って集まっていますが、全体での集まりは卒業以来始めてです。連絡が取れる半数の15名が集まればとのことで案内を出しましたところ、函館と云うこともあり14名の参加となりました。ご夫妻で参加して頂いた2組を合わせると16名になりました。大半は退職して悠々自適の生活を楽しんでいますが、現役で頑張っている人、非常勤で仕事をして

いる人と様々です。遠くはベトナムから国内では大阪から参加してくれました。函館は卒業以来という数人を含め、話が始まると学生時代の顔が浮かび、タイムスリップをして楽しいひと時を過ごしました。翌日は市内見物のあと学部を訪問しましたが、昔の学部・研究室の面影は全くなく、一抹の寂しさを感じたようです。しかし、恵まれた環境の中で過ごす若い先生方および後輩の学生諸氏に期待するところ大という感想を多くが持ちました。次回は札幌で集うということでお互いの健康と健闘を誓いました。  
(幹事:猪股・木部・丸山・吉水)

### ご寄付への御礼

この度、故北出 弘様(昭52ギ、前大阪府支部副部長)のご家族様より北水同窓会あてに多大なご寄付を賜りました。北水同窓会を益々盛り上げたいという故人の熱いお気持ちを皆様にお伝えいたたく、ご報告させて頂きますと共に、厚く御礼申し上げます。

尚、佐々木雅人様(昭56化)より北出様への追悼の寄稿を親潮308号11ページに頂いております。併せて、ご案内いたします。

**函館竹田**

株式会社  
**竹田食品**

代表取締役 竹田寿広

# 食卓に函館の味を



本社工場 函館市浅野町3番10号  
TEL (0138) 43-1110 (代) FAX (0138) 43-1113

札幌営業所 札幌市中央区北13条西19丁目1番1号 (水産保冷配送センター3F)  
TEL (011) 623-0990 FAX (011) 644-9910

竹田食品販売(株) 東京都中央区築地7丁目5番3号 (紀文第一ビル2階)  
TEL (03) 6226-6820 FAX (03) 3545-2135

竹田食品販売(株) 宮城県仙台市青葉区本町2丁目9番8号 (日宝ビル5階3号室)  
仙台営業所 TEL (022) 772-1970 FAX (022) 722-1987

竹田食品販売(株) 大阪府大阪市淀川区西中島4丁目3番5号 (NLCセントラルビル5階)  
大阪営業所 TEL (06) 6307-5311 FAX (06) 6307-5358



## ナミ(73)の会 開催

岡本 洋一(昭48ギ)



後列左より

饒村一雄、岡本洋一、三輪隆至(昭49)、久保隆司、稻村祥  
石田眞、森田昭博(食)、藤田信良、赤坂克教

中列左より

長谷久雄(昭49)、檜山雅顕、伊与田先生、綿引芳範、丸茂 知一  
石井由紀夫

前列左より

山田 勉、芦野 雄二、岡 克則

7月20日、昭和48年漁業学科卒業の同期生を主体に東京で集まりをもち、関西から3名、中部から2名そして関東12名に特別参加の伊与田先生を加えて計18名の大宴会となりました。

この学年は学園紛争の影響をもろに受け東大無しの入試、5月から11月に及ぶ学内封鎖、そして数か月遅れの学部移行と波乱万丈の学生生活でした。

卒業以来初めて会う仲間も多く最初は名前や顔が判らないと言いつつすぐに当時にかえり、宴席は4時間に及び男多恨の大変楽しい時間を過ごし、来年の6月19日(火)14時、同じ会場(有楽町さがみ)にて再開を約しお開きとなりました。

参加者には食品学科や昭49年卒の方も来られており、来年の集まりには学科を超えて(どっぶりも超えて)道内や東北方面からもご参加いただけたら幸いです。芦野雄二君(東京以北担当090-3471-8737)岡本洋一(中部以西 090-3035-8961)にご連絡頂けたら、来年5月頃に出欠の確認を致しますので宜しく。

## 北水同窓会 青森支部平成29年総会

山口 伸治(昭49化)



1列目左より

横山勝幸(昭41ゾ)、足助光久(昭40ゾ)、高橋邦夫(昭28ゾ)  
佐藤立治(昭36エ)、吉田由孝(昭56ゾ)、山形實(昭23ギ)  
又井一宣(昭37ギ)、秋葉文和(昭37ギ)、菅野溥記(昭37ゾ)  
奈良岡修一(昭47ギ)

2列目左より

川村俊一(昭56ギ)、伊藤良博(昭53ゾ)、原口健二(昭47ゾ)  
池田康(昭51ギ)、天野勝三(昭54ゾ)、二本柳茂(昭57ギ)  
山口伸治(昭49化)

3列目左より

金澤保(昭56化)、野呂恭成(昭57ゾ)、對馬廉介(昭59ゾ)  
東野敏及(平11生)、吉田達(平元ゾ)、二木幸彦(昭56ギ)  
福田覚(平15博水産)、小谷健二(平13生)、小谷みつ美(平19生)  
泉ひかり(平23ゾ生)、大嶋聰平(平25海資)

今冬の青森市は二十数年ぶりに積雪が極めて少ない中、平成29年2月11日(土)午後4時から、ラ・プラス青い森にて北水同窓会青森支部の平成29年総会及び懇親会が開催されました。

総会は、東野敏及幹事(平11生)の司会進行のもと、今年の1月に逝去されました前川好弘(昭34セ)のご冥福をお祈りし黙祷が捧げられました。

次に、吉田由孝支部長(昭56ゾ)の挨拶に続き、新会員紹介後議事に入り、平成28年収支決算報告及び平成29年収支予算案について承認されました。

また、来る5月27日(土)に青森市で開催されます第97回(平成28年度)北水同窓会定期総会の計画概要案等の報告も行われて、支部長から会員の皆さんへの周知と参加のお声かけのお願いがなされました。

懇親会は、金澤保副支部長(昭51化)の司会進行のもと、山形實氏(昭23ギ)の乾杯の発声で賑やかに始ま

りました。28名の参加者一人ひとりから近況や仕事の紹介などが行われ、和気あいあいに親しく懇談されておりました。

最後に参加者全員で肩を組みながら、吉田由孝支部長の前口上で「水産放浪歌」と「都ぞ弥生」を大合唱した後、池田康副支部長(昭51ギ)の力強い一本締めと筆者の万歳三唱で閉会となりました。来年多くの皆様の参加を期待しています。

## 北水同窓会東京支部 平成29年度定期総会＆新年会

浜谷 一郎(昭51化)



平成29年2月6日(月)18時30分より、コートヤード・マリオット銀座東武ホテルにて北水同窓会東京支部の定期総会及び懇親会が開催されました。

会は樋口達夫支部長(昭50食)の乾杯の発声で賑



やかにスタートし、そこかしこで一年振りの再会を喜び、会場の定員キャパに迫る143名という大勢の参加者で例年以上の熱気に溢れていました。

途中、「会員活動紹介タイム」と称する企業や自分の現在担当している仕事の紹介が若手のパワフルな我が北水の3名の会員によって行われ、会場の注目を一身に集めていました。

又、参議院議員の「横山 信一氏」(昭58ギ)もお忙しい中、駆けつけてくれ同窓の皆様へ近況報告を行って頂きました。

本年も大勢の会員の出席を得た東京支部定期総会の盛況の要因は各会員、サポーター、そして会員企業の

いま豊かな食生活。・・見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場卸売業者

**中フ化**

青森中央水産株式会社

代表取締役会長 石川 栄一

代表取締役社長 塩谷 康之助

〒030-0183 青森市卸町1番1号 (青森市中央卸売市場内)  
TEL 017(738)1181 ホームページ: <http://www.aochuu.co.jp>

絶大な協力の下、ベテラン、若手、女性の参加会員のバランスが程良く取れ、年代を超えたネットワークづくりの交流がごく自然に出来てきた事が大きいのではないかと思われます。

楽しい時間はあつという間に過ぎ、最後は参加者全員が肩を組み「水産放浪歌」「都ぞ弥生」の大合唱で最高潮に達したところで、青木 宏行 副支部長(昭54ギ)の中締めの賑やかなエールで宴は閉会となりました。

尚、次年度の東京支部定期総会は、例年通り2月の第一月曜日の2月5日会場も今回と同じ、コートヤード・マリオット銀座東武ホテルでの開催となります事をこの紙面を借りてご案内させて頂きます。

## 北水同窓会小樽支部総会

梅崎 真大(平10ギ)



前列左より

川嶋孝省(昭38セ)、大野肇(昭55ギ)、東 廣(昭29ギ)

藤田征晴(昭31ゾ)、桜庭啓恭(昭46ギ)

2列目左より

三島康裕(平14生)、山本貞夫(昭46化)、磯谷揚一(昭49ゾ)

平山聰(昭54ギ)、長谷川智人(平10食)、梅崎真大(平10ギ)

3列目左より

原渕圭(昭24海資)、三宅教平(平16生)、藤本崇人(平19生)

島田英憲(昭26海生)

「小樽雪あかりの路」が開催中の2月10日、「小樽寿司通り日本橋」において平成28年度小樽支部総会が開催されました。最年長の東廣さん(昭29ギ)から小樽水産高校の新人島田英憲さん(昭26海生)まで幅広い世代の15名が参加し、総会の後に懇親会が行われ、和気あいあいとした酒宴となりました。会の途中にはお互いの近況報告で盛り上がり、あつという間に時間が過

ぎ、改めて同窓の絆の強さと良さを感じることができました。来年度も同様の時期に開催を予定しています。数多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。

## 北水同窓会広島県支部会'16報告

中山奈津子(平15海)

北辻 さほ(平17海)



前列左より

森岡泰啓(昭38ゾ)、伊藤淳(平22ゾ)、堀田敬三(昭35セ)

後列左より

石田実(昭57ゾ)、羽原浩史(昭55化)、中山奈津子(平15海)、

北辻さほ(平17海)、永井達樹(昭48修ギ)

平成28年11月13日(日)の午後4時から、北水同窓会広島県支部会'16がJR広島駅ビル内のビヤダイニング広島ライオンにて開催されました。

羽原支部長の挨拶および乾杯の音頭で開宴し、支部活動についての報告や参加者8名の近況報告の後、永井達樹氏(昭48修ギ、元瀬戸内海区水産研究所)による講演『踊って・語って・作って食べる』を聴講しました。永井氏は競技ダンスを10年以上前から趣味として行っており、競技ダンスの歴史や魅力を熱く語っていました。その後、永井氏が踊られた動画を鑑賞し、その紳士的なリードに一同は感銘を受けました。また、プロのコンクールを鑑賞するために海外まで遠征した話などを伺って、杯を重ねるとともに明日への英気を養いました。

次年度も同時期に開催すること、次回の設営と会計担当者、話題提供者(題未定、石田実氏(昭57ゾ))などを決めて、閉会となりました。

## 北水同窓会大阪府支部 新卒歓迎会開催

櫻井 遥平(平19生)



2017年5月21日(日)の夕刻、JR大阪駅近くにある「\*北大会館」において、今年、水産学部・大学院を卒業し関西へ来られた方への歓迎会が開催されました。

\*北大会館

大阪駅前第2ビル2階にある北大関西同窓会の拠点。ここに北水同窓会大阪府支部の事務局を設置するとともに、支部月例会(第3土曜日17:00~)を開催し、支部の拠点ともなっている。

新卒歓迎会は昨年に初めて開催され、今回は2回目の開催となります。

今年の出席者は昨年よりは若干少なかったものの、3月まで函館にいらっしゃった新卒者4名を含む18名の参加があり、会場ほぼ一杯となり、大変盛大な会となりました。

この会で初めてお会いする人もたくさんいましたが、大学や北海道の話や近況報告などで話は自然と盛りあがります。

そんな中、参加者ひとりひとりから順番に自己紹介をしてもらうことになりました。はじめに佐々木支部長より新卒者への歓迎挨拶と、大阪府支部の歴史や会場の北大会館設置の経緯についての説明をしていただき、この大阪の北大会館は大学が作った施設ではなく、同窓生が協力して、同窓の集まりの場として作られたものとのことで、関西地区における同窓生のつながりの強さというものを改めて感じました。

今回、初参加となった新卒生の話には、皆さん興味深々で色々な質問がでていました。また、先輩方からは在学中やその後社会に出てからの様々な体験談を聞か

せていただき、大変、勉強になりました。

延々とお話を続けてくださる先輩もいらっしゃいました。

会はあつという間に、終了の時間となり、最後に恒例の寮歌「都ぞ弥生」、「水産放浪歌」の齊唱と記念撮影を参加者全員で行いました。

北海道から遠く離れた大阪で、このように同窓が集まる場所があるのは大変すばらしいことだと思います。今後も、若い方や新しい方にもどんどん参加していただき、より、活動が活発になればいいなと思います。

出席者18名

新卒者4名

高岸愛実(平29海生資)、松村和明(平29海生)、

梶原慧太郎(平29海生資)、田中克典(平29海資)

新卒以外OB出席者14名

大野正浩(昭36セ)、上田 稔(昭45化)、久保田幸一(昭45化)

入江和彦(昭45ギ)、福井 滋(昭50食)、大村泰治(昭51食)

石田浩平(昭54食)、佐々木雅人(昭56化)、藤井英嘉(昭61ギ)

吉村直孝(平3ゾ)、西川哲也(平3ゾ)、若林眞由(平5修食)

堀越光晴(平8ギ)、櫻井遥平(平19生)



## □学位取得者【平成29年3月取得】

張 勲	Predicting potential fishing zones of Japanese flying squid ( <i>Todarodes pacificus</i> ) using data from 4D-VAR assimilation system (4D-VARデータ同化システムを用いたスルメイカの潜在的漁場予測)
Pandey Puneeta	Spawning behavior, egg masses and paralarval development of the Japanese flying squid, <i>Todarodes pacificus</i> (スルメイカの産卵行動および卵塊とふ化幼生の発育に関する研究)
松井 萌	漁灯に対するイカ類の行動応答に関する研究
A.K.M Rohul Amin	Diversity of Vibrios in the Coral Reef Ecosystem of Ishigaki Island, Japan (石垣島周辺海域のサンゴ生態系におけるビブリオの多様性)
高橋 英佑	キュウリウオ科魚類の胚発生と生殖細胞に関する研究
山木 将悟	バクテリオファージを利用したヒスタミン生成菌の発育抑制とヒスタミン蓄積の制御
楊 玉紅	Study on the chemical and nutritional significance of microalgae lipids (微細藻類脂質の化学的、栄養的重要性に関する研究)
尾田 昌紀	琵琶湖固有種ビワマスの自然再生産に関する生態学的研究 ※論文博士

## □平成28年度 卒業者(学部)・修了者(修士・博士)の就職先一覧

### 学部

兼松(株)／三菱日立パワーシステムズ(株)／取手市役所／(株)新生銀行／北海道庁／三井情報(株)／(株)ソフトコム／JFE商事(株)  
北海道信用漁業組合連合会／北海道庁／函館市役所／読売連合広告社／築地魚市場(株)／北海道旅客鉄道(株)／旭化成ホームズ(株)  
泰盛貿易(株)／(株)練成会グループ／森永乳業(株)／(株)レブニーズ／今治造船(株)／沖縄県庁水産職／岩手県庁／大学生協北海道事業連合  
岩見沢市役所／(株)小松製作所／MEグループ／中越バルブ工業(株)／苦小牧港管理組合／富士ソフト(株)／北海道漁業協同組合連合会  
株三菱電機ビルテクノサービス／(株)アウトソーシングテクノロジー／旭川市役所／丸紅(株)／井村屋(株)／(株)北陸銀行／(株)ほくやく  
株成城石井／(株)りそな銀行／昭和電工ガスプロダクト(株)／(株)北海道空港／(株)みずほ銀行／日本水産(株)／(株)松屋フーズ

### 修士

室蘭市役所／水産庁／三菱自動車工業(株)／ケンコーマヨネーズ(株)／西日本旅客鉄道(株)／アース環境サービス(株)／日本郵船(株)／三重県庁  
(株)テックインテック／MCフードスペシャリティーズ(株)／東洋冷蔵(株)／(株)CIJ／日本たばこ産業(株)／(株)シーエーシー／フィード・ワン(株)  
富士通(株)／青森県庁(水産職)／(株)HRインスティチュート／住友重機械モダン(株)／兵庫県庁(水産職)／(株)明治／北海道立総合研究機構  
宝酒造(株)／ジャパンマリンユナイテッド(株)／石川県庁／サーモス(株)／ケンコーマヨネーズ(株)／(株)資生堂／福岡県庁／(株)加藤水産  
北海道大学事務／函館市役所／クボタ化水(株)／宮城県庁／TOTOバスクリエイト(株)／ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)／昭和産業(株)  
日本水産(株)／花王(株)／静岡県庁／味の素(株)／キュービー(株)／(株)オスモ／日本農産工業(株)／(株)総合水研究所／日本水産(株)／兼松(株)  
サンヨー食品(株)／マルハニチロ(株)／エコラボ合同会社／(株)桃谷順天堂／日本水産(株)／(株)日立製作所／(株)BMLフード・サイエンス  
住友重機械マリンエンジニアリング(株)／カルビー(株)／北海道旅客鉄道(株)／日本ハム(株)／ヤマサ醤油(株)／MCフードスペシャリティーズ(株)  
(株)ワーカム北海道／船橋漁業部／よつば乳業(株)／プリマハム(株)／(株)東ソー分析センター／(株)セコマ／(株)太平環境科学センター  
雪印メグミルク(株)／常呂漁業協同組合／大同生命保険(株)／マリンフーズ(株)／(株)ブルボン／アクセンチュア(株)／ユニアデックス(株)  
林兼産業(株)／(株)ニチレイロジ／(株)シード

### 博士

DATUM STUDIO(株)／留萌市役所／ジャパンマリンユナイテッド(株)／北海道大学大学院水産科学研究院  
北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 七飯淡水実験所

## □会員異動

### ○平成29年1月1日付 昇任

宮澤 晴彦 大学院水産科学研究院教授に昇任

### ○平成29年3月1日付 昇任

清水 宗敬 大学院水産科学研究院准教授に昇任

### ○平成29年3月31日付 退職

山下 成治 大学院水産科学研究院准教授が定年のため退職

飯田 浩二 大学院水産科学研究院特任教授が任期満了のため退職

平石 智徳 大学院水産科学研究院特任教授が任期満了のため退職

今野久仁彦 大学院水産科学研究院特任教授が任期満了のため退職

高橋是太郎 大学院水産科学研究院特任教授が任期満了のため退職

### ○平成29年4月1日付 採用・昇任

松石 隆 大学院水産科学研究院教授に昇任

細川 雅史 大学院水産科学研究院教授に昇任

岸村 栄毅 大学院水産科学研究院教授に昇任

荒井 克俊 大学院水産科学研究院前教授が同特任教授に採用

### ○平成29年6月1日付 採用

芳村 育 大学院水産科学研究院准教授に採用

## 【編集後記】

平成29年度「親潮」第1号(通算309号)をお届けします。

特集「北水の今」は教育・研究についてのトピックスを扱っております。前号では、海外ラーニングサテライトに関する特集記事でしたが、本号では、北海道大学大学院水産科学研究院と北方生物圏フィールド科学センター及び紋別市との連携協定に関する記事を掲載いたしました。記事の執筆は、紋別市建設部港湾課 副参事であり、北海道大学大学院水産科学研究院客員准教授の片倉靖次氏にお願いしました。この場を借りて御礼申し上げます。

行事報告としては青森市で開催された北水同窓会定期総会の模様を掲載しております。また北大の同窓生が集う「北海道大学ホームカミングデー2017 水産学部卒業生の集い」の告知を掲載しております。今年度は鴨川シーワールド総支配人の荒井一利氏のご講演を予定しております。ご都合が合わされる会員の皆様は、是非ご参加下さい。

今年度第2号(通算310号目)の原稿の締め切りは、平成30年1月12日(必着)とさせていただきます。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール(hokusualumni@gmail.com)にて受け付けておりますので、支部報告や同期会報告、著書の紹介など、多くの原稿をご投稿下さいますようお願い致します。また親潮では同窓の方々の交流形態として「同窓生の声」の広場を設けております。同窓会誌に対するご意見やご感想等を募集しております。詳しくは下欄に掲載しております投稿規定をご参照下さい。

また支部総会や同期会の開催時の写真や開催案内を北水同窓会のホームページ(<http://hokusui.net/>)にて掲載しておりますので、是非ご覧ください。

編集幹事／宇治 利樹(平18生)

## 親潮投稿規定

### 【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛に封書で郵送するか、同窓会のメール宛に送付することとする。

### 【同窓生の声】

同窓会誌に対する意見、感想などについての投稿とする。個人的な連絡は掲載しない。一つの原稿につき300字までとする。同窓会宛のメール(hokusualumni@gmail.com)のみ受け付ける。写真は入れられない。

平成29年8月発行

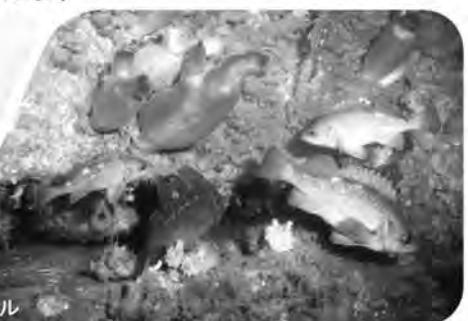
**北水同窓会** 〒041-8611 函館市港町3-1-1 TEL & FAX.0138-42-3681  
E-mail:hokusualumni@gmail.com

## 会員死亡通知

角皆 静男(特別会員) 平成28年12月 ご家族様より  
福本 幸市(昭16才) 平成29年 1月 ご家族様より  
田寺 伸彦(昭18才) 平成29年 2月 1日 吉野 生壯(昭37才)様より  
岡田 勝(昭20才) 平成29年 3月24日 ご家族様より  
篠ヶ谷利夫(昭20才) 平成29年 5月 9日 ご家族様より  
畠田謹次郎(昭23才) 平成29年 1月20日 ご家族様より  
村上 敏雄(昭23才) 平成28年11月 3日 ご家族様より  
上杉 昭二(昭23才) 平成24年10月 3日 ご家族様より  
岩坪 藤吉(昭23才) 平成28年12月23日 ご家族様より  
小林 秀夫(昭24才) 平成29年 6月21日 ご家族様より  
長島 英男(昭24才) 平成29年 1月 9日 ご家族様より  
高橋 孝(昭24才) 平成29年 3月30日 安井 敬一(昭24才)様より  
池内 順一(昭24才) 平成29年 5月 2日 ご家族様より  
植村 順(昭25才) 平成28年 ご家族様より  
佐藤 敏郎(昭25才) 平成29年 1月 下河原 修(昭25才)様より  
羽二生 卓(昭25才) 平成28年11月 7日 ご家族様より  
草沢 庄一(昭25才) 平成28年 6月10日 ご家族様より  
佐藤 久也(昭26才) 平成29年 7月19日 坂井 美久(昭30才)様より  
柳田 智之(昭26才) 平成29年 4月11日 ご家族様より  
鈴木 俊雄(昭26才) 平成28年 ご家族様より  
越坂 裕司(昭28才) 平成29年 1月 3日 ご家族様より  
谷川 高士(昭28才) 平成28年11月 6日 ご家族様より  
石子 博敏(昭29才) 平成29年 1月10日 ご家族様より  
齋藤 讓(昭29才) 平成29年 4月15日 ご家族様より  
橋爪 克己(昭30才) 平成28年11月19日 坂井 藤吉(昭30才)様より

岡野 英樹(昭30才) 平成28年 8月14日 坂井 藤吉(昭30才)様より  
富田 幸二(昭30才) 平成29年 4月30日 山崎 文雄(昭33才)様より  
竹島 康雄(昭30才) 平成28年 8月23日 ご家族様より  
吉田 仁(昭30才) 平成28年 8月26日 ご家族様より  
羽田野六男(昭31才) 平成29年 5月15日 学内より  
池田 正利(昭32才) 平成29年 3月28日 今井 煉(昭32才)様より  
石塚 史郎(昭32才) 平成28年 9月 1日 三幣 英男(昭32才)様より  
佐藤 弘毅(昭32才) 平成28年11月 ご家族様より  
阿部 弘(昭34才) 平成29年 4月 7日 米田 義昭(昭34才)様より  
前川 好弘(昭34才) 平成29年 1月28日 ご家族様より  
中川 康之(昭34才) 平成29年 7月25日 伊藤 尚人(昭34才)様より  
山田 昌次(昭36才) 平成28年 6月 ご家族様より  
坂井 弘司(昭36才) 平成25年 7月 ご家族様より  
中村 寿孝(昭37才) 平成29年 6月22日 小野里 坦(昭37才)様より  
大野 善郎(昭38才) 平成29年 2月10日 ご家族様より  
蛇名 章(昭39才) 平成29年 2月 5日 ご家族様より  
白川誠一郎(昭40才) 平成27年 7月 森 純夫(昭39才)様より  
坂本 正勝(昭41才) 平成28年 6月25日 ご家族様より  
小野田 勝(昭45才) 平成29年 2月12日 ご家族様より  
鹿瀬 憲治(昭45才) 平成27年10月25日 ご家族様より  
日比野利彦(昭49才) 平成28年 6月 1日 山崎 文雄(昭33才)様より  
野崎 雅敏(昭56才) 平成29年 8月 1日 北海道信用漁業協同組合連合会様より

人工魚礁を通じ 水産資源の保護・増殖に貢献します



**海洋土木株式会社**

〒104-8139 東京都中央区銀座3-9-11

代表取締役 木實谷浩史 (54才) 取締役副社長 石井直志 (49才)

青森営業所長 山口伸治 (49才) 北陸営業所長 魚住昭文 (52才)

札幌支店部長 日和久典 (平6才)



# つるはち 株式会社 釣八

URL <http://www.tsuru8.co.jp/>

よく間違えられますが、「つるはち」って読みます。

社長の名前が「つるみ」だから。

世界中の海から、イカ、赤魚、サバ等なじみのある水産物を、

いま、求められるかたちにして、お届けできるように奮闘努力刻苦勉励

代表取締役社長 釣見 泰之(昭和59年 漁業学科卒)

【水産学部卒業社員】 土井 倫行(昭和60年卒) 奥田 和人(昭和60年卒)

本社

〒104-0042 東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル2F  
TEL03-3297-8883 FAX03-3297-8885

八戸支店 〒031-0082 青森県八戸市常海町13-2 サンデュエル内丸1203 TEL 0178-71-3488

銚子支店 〒288-0051 千葉県銚子市飯沼町186-93 八木友ビル2F TEL 0479-25-8822

大阪支店 〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江3-14-12 イイダビル2-2A TEL 06-6532-8886

福岡支店 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-18-28 フクオカビル7F TEL 092-401-8828

関連会社 築地:(株)釣十(マグロ仲卸) 中国:大連釣八(水産物加工)

アメリカ・ロスアンジェルス:フィッシングエイト タイ・バンコク:釣八タイランド

釣ハグループは、外国人財事業により  
**水産・食品・製造業界の人手不足を解決！**

外国人財専門 紹介・派遣会社  
株式会社グローバルスタッフィング

Global\*  
Staffing

人材紹介・人財派遣  
有料職業紹介事業許可 13-ユ-307639  
労働者派遣事業許可 派13-306347  
国内・中国・ミャンマー・ベトナム



ミャンマー 日本語学校・技能実習生送出し  
ミャンマー アンダマンエイト



技能実習生送出 (JITCO認定)  
日本語学校「みらい」の運営  
ミャンマー進出コンサルティング  
人材許可番号: 131/2015



就労ビザ・技能実習生・留学生採用、トータルにサポート！

東京都中央区入船三丁目8丁目7番 ザ・ロワイヤルビル5F 〒104-0042 TEL: 03-6228-3078

交通事故、労働災害、医療過誤、倒産、債務整理、サラ金破産  
個人再生、未払い残業代請求、離婚、相続、遺言、成年後見

相談料は全て無料です

# 吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世  
(昭和48年増殖学科卒業)

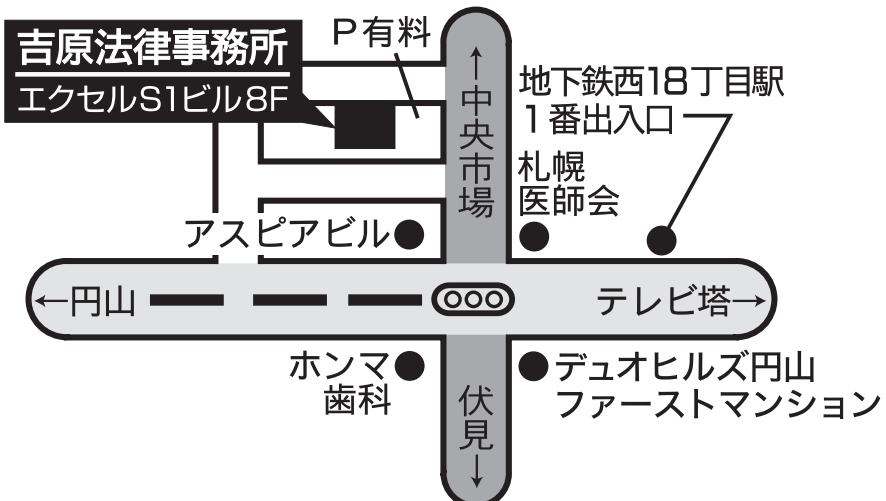
お気軽にお問い合わせ下さい

**TEL 622-7963 FAX 622-8414**

札幌市中央区大通西20丁目2-20(エクセルS1ビル8F)

(交通)東西線西18丁目地下鉄1番出口

(E-mail) [lawyer@yoshihara-lawoffice.jp](mailto:lawyer@yoshihara-lawoffice.jp)



営業時間においてになれない方はご相談下さい。